

職員研修会・発達障害の理解と支援

6月30日兵庫教育大学大学院から井澤信三教授に来ていただき、「発達障害の理解と支援」に関して高等学校で進めていかねばならないことに関する講義をしていただきました。



発達障害に関してはなかなか理解が進まず、どのように対応して良いのか周囲も困るケースが多いです。遅刻が多くたり、提出物が出せなかったり、整頓ができなかったりとサポートしていると誤解されることもあり、その生徒にとっては苦しい思いをすることも多いと思います。

私も村岡高校で「通級」を実施するにあたって担当者と一緒にどのように進めていくかを考えた時期があり、井澤先生の話を聞かせてもらいました。今回も非常に丁寧に基本的なところから話をさせていただき、職員は理解を深めることができたと思います。「少し待ってね」では抽象的なので「15分待ってね」と具体的な時間を伝えるなど伝え方も考えなくてはならないですし、状況をうまく理解できないケースもあるので「早くしなさい」は「何をいつまでにどうするのか」など細かな指示をすることで理解できることも増えてくるので、少しの気配りや相手を思いやる気持ちを持つことが大切だと思いました。発達障害の症状には連続性があり、症状の濃淡によって「要支援」といわれたり、「診断名」が付いたりするそうで、内容を聞いていれば誰しも当てはまることが多いです。私たち教職員が心がけるべき発達障害に関する理解を少し前に進めていただけたと思います。お忙しい中、ありがとうございました。

私学体育研究会研修会 7月1日私学体育研究会研修会があり、須磨学園高校出身北京オリンピック陸上競技女子5000m代表小林祐梨子さんの話を聞かせてもらいました。「人との絆(たすき)にこめた想い」と



いうテーマで90分話をされたのですが、講演慣れされていることやラジオ番組でもご活躍されていることから話は止めなく進み、聞いているものを飽きさせない感じでした。目標を持つことの重要性、達成までの道のりを考えることなど指導者からの学びをもとに、数学の教員免許を取得され、10年前から少年院で数学(算数)を

教えておられるところで、Teach(一方的に教える)ではなく Coach(その人が望む方向へ導く)が重要だと気づきなど私たちにも響く内容でした。その中にはチャレンジ→失敗→振り返り→自信をつけて→再チャレンジなど本校のスローガンでもあるNEVER STOP CHALLENGINGに通じることも話されていました。高校駅伝での全国優勝の際のチームの秘話など仲間、ライバルとの関係性から周りの人への感謝についても経験した人でないと話ができないような内容で、所々笑いも誘いながら、聞いているものも最後まで興味を持って話を聞くことができ、元気をいただきました。兵庫国体では選手宣誓も務められた有望選手として注目を集めていた選手です。時にはしんどいこともあったと思うですが、常に笑顔で前向きに陸上競技に取り組まれ、今なおその経験を活かして陸上教室などで後輩の育成だけでなく、話しかけられる年輩者の相談にも乗るなどご活躍中です。貴重な話を聞くことができ、良い時間を過ごせました。

武田先生のこと ここで、武田先生の現状について報告させていただきます。4月下旬、病に倒れた本校の武田先生は、救急搬送され入院。症状の安定とともにリハビリをするべく転院し、約2ヶ月。その間、精神的に厳しい中、リハビリを頑張っています。ベッドから動けない状況も少しずつ改善され、杖について一步を踏み出すなど学校生活への復帰を願い、懸命にリハビリに励んでおられます。3年8組の皆さんには武田先生からのメッセージも届けられました。武田先生が学校に戻って来られた際には、みんなで迎え、支えていけるようにしていきたいと思います。武田先生頑張れ！！

期末考查中の部活動 6月末に行われた柔道部の県民大会(スポーツ大会予選)では、73kg以下級藤村選手、90kg以下級千々和選手、無差別級平選手が優勝し、近畿ブロック大会出場の県代表に選出されました。本大会に向けて頑張ってください。また硬式野球部も開会式が終わりよいよ夏の大会が始まります。期末考查中、暑さ対策をとり熱中症に気をつけて頑張ってください。

